

**潮騒通信**

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

# どっかい生きてます!



# 私たちの活動には 世界平和への ビジョンがある



今年は終戦(敗戦)から70年に当たります。憲法で非戦を誓った日本は、武力に頼らず世界に平和貢献してきました。1人の戦死者も出していない戦後の歩みを各国は賞賛しています。邪悪な軍事的野心を抱かず、抑制の効いた対外政策を保った「平和主義」は、この国に未曾有の経済発展をもたらしました。でも長引く国内経済の低迷や混乱と戦争が続く中東情勢の余波などで、世界に誇れる営為が急速に危うくなっています。国の内外を問わず起こる私たちの常識や経験を超える理不尽極まりない殺人・殺戮と、行き場のない怒りや悲しみ、先行き不安な時代への予感と得体の知れない恐怖心が冷静な判断力を失わせ、「もはや平和憲法の理想論では直面する危機を乗り越えられない」とする力に頼る論調が勢いを増しています。私の心の中にも言葉にできない薄気味悪さや空疎感が広がっていることは否定できませんが、このちぐはぐな感覚を威勢の良い言葉で無理やり正当化して肯定してしまうことには強いためらいを覚えます。

というのも、私には「このまま行けば、日本はまた戦争ができる国になってしまうのでは…」という強い危機感があるからです。先の大戦で父を戦死で失い、この影響から戦後間もなく幼少時に母との別離を強いられ、ひもじさと深い孤独、いじめられた体験などから人生の方向を見誤った私としては、「戦争だけはごめんだ!」との思いが人一倍強くあります。戦争は人間最大の非行であり退行です。この最悪のパワーゲームから生まれるものは、果てしない「憎しみの連鎖」と「絶望的な不幸」だけです。どこにも幸せにつながる要素はありません。これはダルクで薬物・アルコール依存症から回復できた私の偽らざる実感であり、本心です。力こそが自分を守る術だと信じて長くヤクザ世界に身を沈め、敵対する相手を打ちのめすパワーゲームに酔い、やがては覚醒剤とアルコールの手を借りて偽物のパワーゲームで身を持ち崩した男の深い反省なのです。

言うまでもなくダルクの真骨頂は「許しと救い」「癒しと感謝」です。こうした崇高な精神世界の獲得は、パワーゲームの対極にあるスピリチュアルな内面の成長によってもたらされる、ハイヤーパワーの祝福です。依存症の回復を目指す仲間たちが互いに自分の無力を認め合うことで、パワーゲームを無化する不思議なメカニズムがダルクにはあります。常にニュートラルな立場で、どんな人間でも依存症の回復を目指すならば平等に遇します。八百万の神への信仰に通じる「いい加減=丁度よい加減」を認める中庸の精神と懐の広さもパワーゲームを無化する大事な要素です。そしてこれこそ力に頼る「競争」ではなく、「協走」によって新たなコミュニティをつくる地道な平和運動です。

「ヤク中、アル中の分際で分かったようなことを言うな!」と叱られそうですが、私はダルクの精神を受け継ぐ潮騒JTCでの活動が、長いビジョンで見れば世界平和につながることを信じています。

(センター長 栗原 豊)

## 潮騒ファイザープロジェクトの3年間を振り返って

潮騒農業の受け皿が整い、  
自分の成長を促してくれた

試行錯誤しながら3年間に及んだ潮騒ファイザープロジェクトの取り組みが、昨年末で終了しました。アル中・ヤク中・ギャンブル中毒という世間の厳しい視線を意識しながらも、ファイザー社からの助成の恩恵を受けて自助努力により大きな成果を残せました。新たな課題も見え始め、農業を柱にした潮騒の就労支援ビジョンに明るい見通しを得ています。ご支援を頂いた多くの皆さんに、改めて感謝を申し上げます。自分たちの悲願だった就労支援についてハード・ソフト両面から受け皿を整備できたことは、潮騒にとって貴重な財産です。自分は農業隊のリーダーとしての重責を全うできたことで、自信と達成感を得ました。



振り返ると、栗原センター長が口にした妄想(プロジェクトの個別事業=荒地開墾による潮騒農場、水田農業への挑戦、青パパイヤと多品種野菜栽培、JAとの連携、シェアハウス建設、農場直営の飲食店・野菜直売所の開設、干しイモ加工場の整備…)が次々に現実となり、とても忙しい3年間でした。初年度の青パパイヤ栽培が難産だったり、中心メンバーが亡くなったり、次々に仲間たちがスリップしたりと失敗やトラブルも多かったけれど、「当たって砕ける!」のダルク精神で結果がついてきた感じでした。案ずるよりも産むが易し、「やればできるんだ」という貴重な体験につながりました。

それにしても自分には何もかも初経験でした。自分には薬物やアルコール、ギャンブルではなく、人間関係の不全感と共依存の回復が課題です。アルコール依存症の家庭でアダルトチルドレンとして自己形成したことで、早くから生きづらさを感じていました。人間関係に躓いてばかりで、仕事も長続きせず、潮騒を手伝うことになっても「入寮者とはもめごとを起こさずに脇役で適当にやろう」という関わりでした。まさか自分がリーダーシップを取るなど予想外のことでした。しかも未経験の農業分野でしたから、プロジェクト1年目は不安ばかりでした。

失敗も多く、「やりきれんのだろうか…」という不安が払拭できたのは、本格的に農業に取り組んだ2年目からでした。農業隊がチームとしてまとめ、生き生きと活動す



▲潮騒農業自然隊リーダー、加勢ヒトシ

るようになりました。みんなの秘めたパワーが開花し始めたのです。3年目には、みんなの農業に向かう情熱が半端なものではないことが分かりました。同時にメンバーがクリーン期間を伸ばしたことも、農業の効果の表れです。ミーティングが苦手で、回復プログラムに取り組めない高齢者や重複障害者にも農業が有効なことを実証できました。

就労支援プロジェクトとはいえ、今のレベルでは農業で食べていくのは至難の業です。厳しい社会環境の下で社会に出ていくのが難しいとしても、あるいは農業で得られる賃金が安いとしても、潮騒が入寮者の秘めたマンパワーを生かして、就労支援の農業構造を自力で作り出したことは他に誇っていいと思います。みんながやりやすいように、みんなで考え、みんなで方針を決め、そして楽しく農業をやれたこと(もちろん苦労も多かったです)が自分を大きく成長させてくれました。互いに失敗を認め合いながら、チームでやることの面白さを実感できたのも新鮮な体験でした。自分は学校時代に部活の経験がなかったので、もしかしてこんな感じだったのかなと、改めてハイヤーパワーの偉大な恩恵に感謝しながら充実感に浸っています。

## 鹿嶋市の護国院で恒例の節分祭 潮騒の仲間たちも景品をゲットして大喜び



# 節分祭

▲節分祭を終えて満足げの潮騒の仲間たち

節分の2月3日、今年も鹿嶋市宮中2丁目の護国院で節分祭が行われ、栗原豊センター長や潮騒 JTC の仲間たちが参加しました。四季折々のイベントや季節の歳時記を大切にしている潮騒 JTC では、入寮者が毎年楽しみにしています。

会場の降魔山護国院は真言宗智山派の名刹で創建は708年と古く、北関東三十六地藏尊霊場の第二十九番札所となっています。本尊の不動明王は有名な成田山新勝寺とは兄弟不動です。潮騒では7年ほど前から同寺の節分行事(追儺式)に参加しています。

この日は、本堂で午後6時から住職らによる祈祷があり、その後に境内の特設会場で今年72歳を迎える栗原センター長が一般参加の年男・年女やゲストの皆さんと一緒に檀上から豆まきを行いました。元プロボクサーの竹原慎二さんや畑山隆則さんらが壇上に登ると、境内からは歓声が上がリ、カメラのフラッシュが光りました。

豆まきといっても実際に撒かれるのは即席カップ麺や菓子類などで、豪華景品が当たるとあって舞台下では参加者が大きな袋や段ボール箱などを持って待ち構えました。「鬼は外、福は内」の掛け声に合わせて景品が撒かれると、境内の熱気は最高潮に達し、潮騒の仲間たちも一般市民の参加者に負けまいと段ボール箱を持って懸命に各種景品を拾い合いました。

始まる前は「あー冷たい」と寒そうにしていた栗原センター長でしたが、いざ始まると会場の興奮にのまれるか

のように寒さを忘れて檀上からお菓子などを景気よく撒きました。終了後には仲間たちが、ゲットした景品を手に「こんなにたくさん取れたよ」とうれしそうな表情を見せていました。



特設ステージから景品を撒く栗原豊センター長

## 節分祭後の二次会に参加し市民と交流 鹿嶋市出身タレントの余興を楽しむ

3日夜に行われた、鹿嶋市宮中の護国院での節分祭を終えた年男の栗原豊センター長ら一行は、近所のホテル古保里で2次会を楽しみました。

護国院の住職はあいさつで「去年の暮れに中国で『お祈りをしてはならない』というお触れが出た。一宗教家としてはとんでもないことだと思う」と述べた上で「幸せを願ってお祈りができないのは本当に悲しいこと。みなさんも願いをこめてお祈りできるので、その気持ちを忘れないでいただきたい」と、幸せを願ってお祈りできることの大切さを訴えました。

2次会では、豆まきにも参加したお笑いコンビ「かりすまーず」が登場。鹿嶋市出身のあゆさん(30)は、歌手の浜崎あゆみに仮装した姿で登場。浜崎さんの物まね芸を披露し、会場を沸かせました。栗原センター長もあゆさんと一緒に記念写真に取まるなど、ご機嫌な様子でした。

同コンビの相方の幹てつやさん(48)は「永ちゃん」と矢沢永吉さんの仮装で現れ、同じく物まねを披露して会場を盛り上げました。

会場ではお酒が出されましたが、言うまでもなく栗原センター長はずっとクリーンを保っていました。



栗原豊センター長と記念写真に写る「かりすまーず」のあゆさん



節分祭2次会会場に現れた「かりすまーず」の幹てつやさん

## 豆まき後に僕の中には 心地よい達成感が残った

2月3日は節分で、豆まきの日。僕は潮騒デイケア施設に近いお寺で行われた豆まきイベントに参加したので、その感想を記します。いつもは部屋でのんびりしているので、この日もいつも通りの生活を送っていた。でもイベント事への参加があるとのことで、正直言うと少しだけ気持ちが高揚していたのも事実だった。

豆まきは年に1回の行事。幼少時から豆まきと言えば玄関や庭に豆を投げつけたことぐらいで、僕にはこれと云って記憶に残る良い思い出といえるものがない。僕の住んでいた所は鹿嶋市よりも栄えていたし、人通りも多かった。それに比べて、このまちは日中でも街路には人通りが少ない。だからお寺の豆まきに一体どれくらいの人が集まるのか、まったく予想がつかなかった。

境内がすっかり暗闇に包まれ開始時間が近づくにつれて、アディクトの僕の中にも「まだかまだか」と気持ちが高ぶるのが分かった。そして、その時が来た。周りを見ると、一番に人の多さにびっくりした。子供からお年寄りまでイモ洗い状態だ。何より驚いたのは撒かれたのが豆ではなく、いろんな食べ物だったこと。節分だから、てつきり豆を撒くものだと思っていたが、檀上から降ってきたのはカップ麺や菓子類などだった。そうした景品を下で陣取る人たちが我先にと奪い合う光景…。僕も必死で取ろうと試みたが、人の波で思うように動けず、足を踏まれたり、押されたりした。

それはまるで激しいバトルの競演に僕には思えた。でも、豆まきが終わって僕の中に残ったのは、なぜか心地よい達成感だった。それは新鮮な、初めての経験だった。(シンヤ)



# 近藤恒夫氏インタビュー

## 人間が最終的に目指すのは幸福の追求だ



自分たちが整備した潮騒水田の田植え風景。自然とのふれあいを大事に、あえて手植えにも挑む

### ●農場で作物づくりに挑むのは健康的でいい

— 近藤さんは、アディクトの就労支援活動については「ダルクの本来業務ではない」として一貫して否定的なお考えです。でも、現実にはいくつかのダルクで就労支援の意味合いを込めたアプローチがあるように思います。例えば地方のダルクなどでは農業関連での特産品づくりなどが試みられてきた経緯があります。これについての感想は？

近藤 それもいいんじゃないか。ダルクにとってはある種の必然的な流れだったんだろうと思うよ。農作業は自然が相手だけにヤク中やアル中にとっては体質的に合っているんだろうよ。僕も海外の施設をいくつか見てきたけど、欧米の治療共同体では農業を柱に据えて取り組むケースが多かった。

— 長野ダルクだったか、過去にキムチ作りに挑んでいましたね。磐梯ダルクではNPOの支援を得て福島原発事故による放射性物質の除染活動を兼ねて農業に励んでいます。それらは必ずしも就労をにらんだ内容ではないけど、作業療法としてはとても農作業が有効なのは確かでしょう。

近藤 太陽の恵みを受けた野外の広い農場でダルクの人たちが野菜やコメづくりに挑むのは健康的だしね。一日じゅう施設に籠ってるより、はるかに健康にはいいよ。

— 行政に信頼の厚い栃木ダルクは依存症に理解のある地元農家の力強い支援もあって、本格的に米や野菜づくりで実績を上げています。農産物直売所に出荷して販売するほど力を付けている先進事例もあります。重複障害者への支援に力を入れている三重ダルクでは就労を視野に



ビニールハウス内での農作業。3年間のファイザープロジェクトで潮騒農業の受け皿整備が進んだ

入れてミカン農家と連携したり、弁当作り作業に力を入れています。富山ダルクも季節限定ですが、支援者の支えてボランティア活動として農業に取り組んでいます。依存症の多様化や高齢化、重複障害化などで、ともするとダルク内に滞留する傾向が強くなっているだけに、外に押し出したいという流れのようです。

近藤 いい流れだね、それは。いい傾向だ。

### ●潮騒はその名前の通りになってきている

— ご承知のように潮騒JTCでは、それをさらに一歩進めて自前で就労支援環境を整えてきたわけですよ。今では農業を中心として就労支援プログラムをつくりつつある。入寮者のマンパワーを生かして自力で農場を整備して、農産物の加工場もつくったし、農場と連携して食堂と直売所も自分たちの力で完成させた。

近藤 凄いことだね。潮騒はジョブトレーニングセンターという、その名前の通りになってきているんじゃないの。就労支援ではないけれど、初期のダルクにはそうした心意気や志があった。自分たちの持つ力を信じて、みんなでやるってのはいいよね。それは当事者活動の原点だからね。自分たちにできることはできるだけ自分たちでやりきる。それは見習うべきだ。

— でも、その中で課題も見えてきました。潮騒でも福祉の恩恵(生活保護受給)に浴するのはいいとして、入寮者の自立心が弱くなっているように思います。安全安心に回復活動に取り組めるのはいいとして、苦勞しなくても衣食住が保障されていますから、生活がすっかり受け身になってしまった。自立しようという意識や意欲が削がれて、「生保依存」ともい

短期連載

Vol.2

## 「ダルクと就労支援について」



うべきマイナス傾向が生まれています。これをどうしたら突破できるか…。改めて伺いますけど、近藤さんはアディクトの就労問題についてはどう考えていますか？

**近藤** そりゃあ就労はダルクの大事な目標の一つだよ。でも、それがすべてじゃない。ダルクのなすべきことをひと言でいうなら、依存症に苦しんでいる仲間の回復を手助けすることに尽きる。当然、そのための生活支援も大事になる。ダルクで働けるまで回復できたなら、今度は自分で努力して働く場を見つけてきて就職する。そうして自立した生活ができるように促すこと。図式的に言えばそうなる。地域社会で人並みに就労できれば申し分ない。まあ、現実はとても厳しいが…。いわゆる福祉的な就労もいいけど、福祉作業所みたいなところで安い工賃をもらうより(その意義は認めるけど)、アディクトの回復者ならきちんと仕事にありついて給料をもらって、一人前に食べていけるようになるのが理想の姿だろう。生活が安定すれば、結婚して家庭だって持てるようになるという将来ビジョンも描ける。

— だけでもディクトの就職は絶望的なほど厳しいし、就労環境はとても貧しいですね。

●僕はマック責任者を就労の足掛かりにした

**近藤** だからさ、考えなければならないのは、就労も大事だが、人間どう生きるのかってこと。依存症の人たちがどう生きればいいのか。ありきたりの答えだけど、僕は健常者であれ依存症患者であれ、最終的に目指すべきは、やっぱり幸福の追求だと思う。その中身は一人ひとりみんな違うし、違って当たり前。人それぞれ価値観が違うわけだからさ。健常者であれ何であれ、誰だって幸せに生きる権利がある。

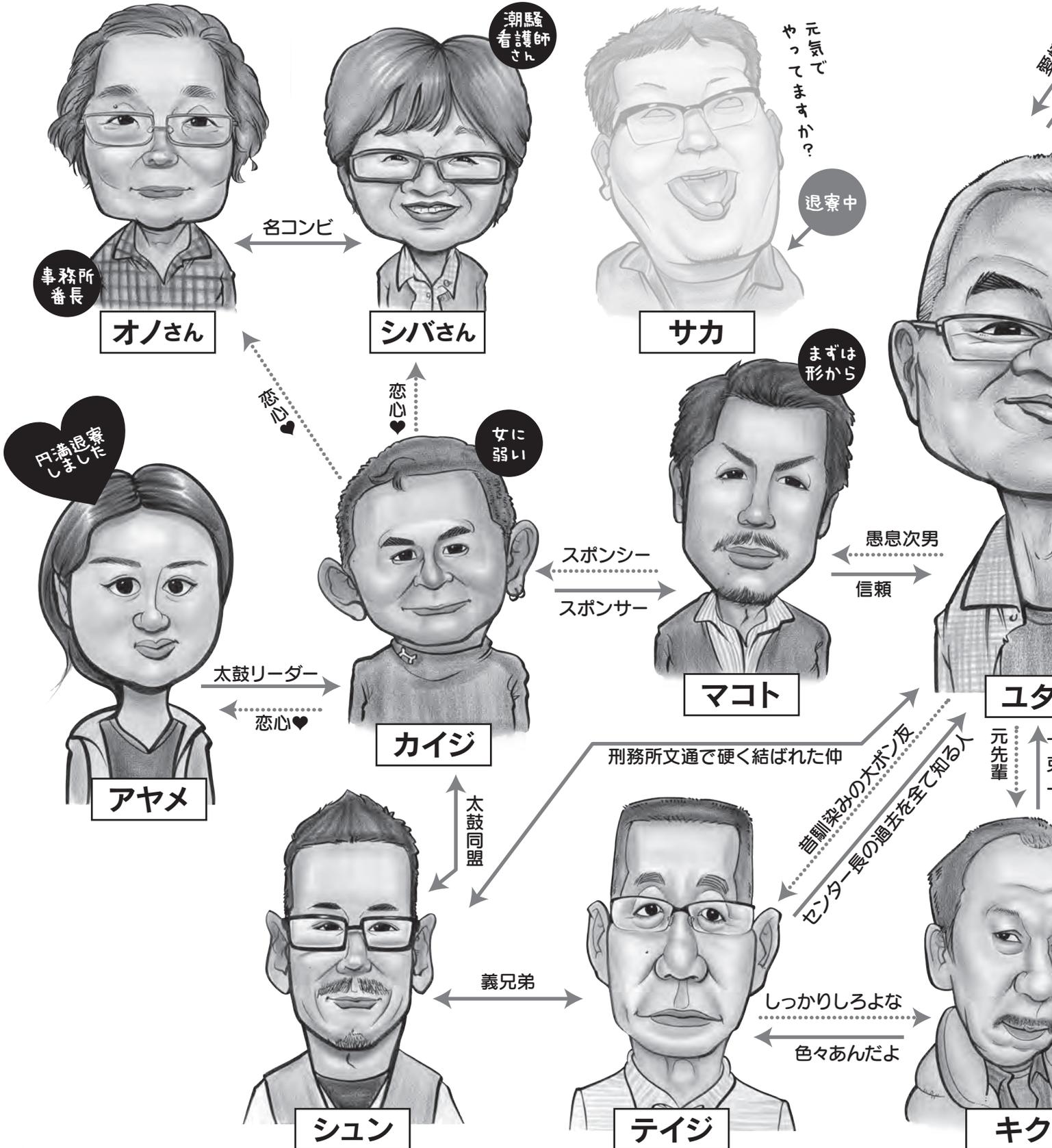
だから僕らが生きるこの目的は、最終的には幸福の追求だと言える。

一般的には、きちんと仕事をして経済的にも豊かになるイメージが普通だろうな。それが働く人たちの大きな生き甲斐、生きる目標になっている。それも一つの目標には違いないが、いろんな事情で働けない人もいる。そういうケースでは生活保護を受けて生きるのも一つの方法。それしかないなら仕方ない。ここは「お互い様」の精神だな。まあ、僕は北海道時代に生保を1年間だけ受けたけど、むしろ働くことの方が幸せだった。あの頃、生活保護(費)は振り込みじゃなくて、受給者はみんな銀行で一列に並ばせられた。そして「近藤さん」って窓口で大きな声で呼ばれるんだ。当時は個人情報保護なんていう意識はなかったからね。僕はあれには耐えられなかった。

で、丁度その時期に、たまたまロイ(故ロイ・アッセンハイマー米国メリノール宣教会神父)さんから「札幌マックの責任者をやらないか」って誘いを受けた。今振り返ると、そこが僕の就労の足掛かりだったかな。それ(マックの責任者)をやっていたけど、やっぱりどこか違うな、と。つまりアル中の人たちの中では僕は浮いていたんだ。何か違うぞ、と。アル中の人たちとはジェネレーションギャップもあるから、じゃあダルクをつくらうと。アル中の人たちは僕に比べたら人生の先輩が多かったし、ヤク中の僕としてはどことなく差別されているような意識も感じていたから、これはもうヤク中だけの回復の場を作るしかないかな、と決意した。そうしてダルクをつくったんだが、僕はダルクを就労の場にしよう、その時に考えたんだ。(次号に続く)

# 潮騒 スタッフ 相関図

潮騒 JTC を支えるスタッフの似顔絵です。ダルクや潮騒では、依存症の回復者がスタッフ研修などを経て就任しています。いわゆる回復者カウンセラーのシステムで、他の医療分野では見られない民間依存症施設ならではの独自の形です。文字通り当事者主義による幅広い活動を、その中心で支える重要な人材です。自らの回復を図りながら、先行く仲間の一員として入寮者の病院送迎や日々の細かな業務を忙しくこなしていますが、時には施設の都合によって避けられない仕事もあり、縁の下の力持ちとして欠かせない存在です。(一部に退寮されたメンバーもいます)



女帝

朝騒 ATM

稀代の博徒



恐ろしい!  
監視・疑い

金貸す  
金借りる

ルミ

コバ

天国の入り口から  
この世に戻された  
ギャンブラー

チョー

神のケガ  
(髪の毛が)  
あとは  
任せたま

エイサーの顔  
キョンドラ

同じことを何度も罰く  
いい加減にしろ!

愚息長男  
信頼

Mr.  
茨城弁

たまには現場  
来いよ! と思ってる  
現場はまかせた!

期待のエイサー野郎

ヒトシ

リョウ

センター長



ツカ

下津景同盟  
現物支給は  
任せたま!

いい加減にしろ!  
以心伝心

悪友  
親友♥

刑務所で  
同房の仲



ヒロ

こう見えて  
ベテランキーパー

愛してる♥  
拒絶

ユウ

トム

精神  
不安定

カツミ

退寮中

またどこかで  
会いましょう! by roba

# 受刑者からの手紙

## 今度こそは絶対にクスリと縁を切る覚悟です

私は覚醒剤の所持・使用で逮捕され拘置所で裁判を待っています。前刑の出所後クスリには手を出さず3年以上社会で生活してきましたが、ちょっとした気の緩みからクスリに手を出すようになり、またしても現在囚われの身となってしまいました。捕まってからは反省と後悔の毎日です。仕事も順調で大切な女性もいたのに、再度クスリに手を出してしまったことを考えると、認めたくはありませんでしたが、覚醒剤の依存症だと認めるようになりました。もう37歳という年齢ですから、とても悩んでおります。人生の中盤に差し掛かっていることを考えると、もう2度とクスリには手を出してはならないし、横道にそれている時間などないはずです。ですから今回を更生のラストチャンスとして、クスリから完全に離れる決意です。実は、ここでSさんという人から、そちらの事を聞きました。それで出所後、私もそちらにお世話になりたいと思っております。今度こそは絶対にクスリと縁を切る覚悟ですので、何卒お力を貸して頂きたいお手紙をした次第です。

(東京都 K・N)

## クスリからの決別を心にジョブに入寮したい

栗原さんお変わりないですか。ご承知のようにここでの生活は食べる事とテレビを見る事が何よりの楽しみです。潮騒の方はどうですか。私も時折考えるのですが、潮騒にお世話になるとして、施設での生活をどんな気持ちで過ごすべきかと色々と自問自答しています。2度と戻りたくないクスリの世界からの決別を心に、そちらに入寮したいと思っています。その喜びをかみしめるべき未来を夢見てジョブでの生活を心に秘め、毎日を過ごしております。こういう所なので(潮騒の)住所を他人に教える事ができない規則があるので、一日も早く出所して、その人たちに伝えたいと思っています。入寮の基準が覚醒剤だけか、他の薬物でもいいのか、酒はどうなのか、窃盗ではダメなのか、等質問責めに合っています。後はジョブの新聞(潮騒通信)を見せながら納得してもらっています。勿論、その中には半信半疑の人もいますが、栗原さんの説明や意義についての話など丁寧に伝えてあります。それでは、また…。

(東京都 S・H)

## 懲役2年8月未決通算180日の判決を言い渡された

【第1信】 栗原さん。私は娑婆にいるとシャブの道を走ってしまいます。どうか私を悪い道に行かないよう、力すくでもよいですから更生させてください。不安でたまりません。よしんば懲役に行って社会復帰した場合、再度クスリに手を出すのではないかと心配でなりません。当所にある官本で依存症等の事を勉強しておりますが、実際は思うようにいかないのではありませんか？ 栗原さんが代表を務める潮騒では入寮者の皆さんは毎日どのように過ごしているのでしょうか。また、ジョブトレーニングセンターとアディクション・ケアセンターとはどう違うのでしょうか。ミーティングには毎日出席するのでしょうか。仕事はどうするのですか。色々と尋ねたい事があります。宜しくご指導ください。

【第2信】 早速ですが、実刑の判決です。懲役2年8月未決通算180日を言い渡されました。身元引受人の件、宜しく願います。仮釈で出られるように無事故無違反で出所する気持ちであります。拘置所も一応はエアコンが作動していますが、全然効かないです。娑婆じゃ寒さなんか感じないでしょうが、懲役は寒さだけですものね、辛いのは、一応、北海道を希望しようと思っておりますが、年齢が年齢なのでかなり厳しいと思います。前刑がM刑務所でしたから、今度はF刑務所あたりかもしれません。本当にシャブは怖いですね。2度と手を出したくありません。ダルクにてしっかり勉強してシャブには手をつけません。取り急ぎ私の判決の報告まで。

(東京都 I・H)

今回は年末から年始にかけて送られてきた手紙を中心に掲載しています。受刑生活の中での楽しみといえば、食事とテレビやラジオの視聴です。正月は作業も休みになり、おせち料理も提供されます。元旦には楽しみな年賀状も届きます。とはいっても家族や友人から絶縁状態にあれば、年賀状はこないのが寂しい限りのようです。潮騒では栗原センター長が手紙のやり取りをしている受刑者に年賀状を送っており、喜ばれています。

## 前刑の時と同じく 2年6カ月の求刑をうたれた

お手紙ありがとうございます。今回、薬物事犯として3回目の服役となってしまいました。今回は覚醒剤使用の罪です。裁判では、先ごろ前刑の時と同じように2年6カ月の求刑をうたれてしまいました。今回も私の周りの人たちや会社の同僚、社長には情状証人になってもらい、大変な迷惑をかけてしまいました。覚醒剤は30歳の時に女性から教えられ、今に至っています。そんな私でも薬物依存症から離脱して、なんとか社会復帰したいです。今回は、判決で何年の懲役刑が言い渡されるかまだ分かりませんが、しっかり務めて一日も早く出所して社会に復帰したいと思います。甘いと思われるかもしれませんが、これをご縁に栗原さん、ご指導の方宜しく願います。

(茨城県 N・M)

## 私の方は順調に 職業訓練の情報処理を学んでいる

年賀状届きました。大変に嬉しかったです。元旦に呼ばれて年賀を見た時には、心から有難く感じました。この思いは深く胸に刻まれ、今後形は変われど、いつかご恩をお返しできれば嬉しいと考えた次第であります。栗原様は年男と知り驚きました。施設の発展、所長様の健康を心より願っています。現在、私の方は順調に職業訓練の情報処理を学んでいます。これから試験があり、4級、そして3級を受けさせて頂けます。4月からは元の工場に戻らならないので時間の許す限り、ワードやエクセルを学び今後に生かしたいと思えます。私は茨城には全く土地勘がありません。ですが、同じ部屋に茨城出身の方いて茨城もだいぶ寒い事を知りました。暖冬というものの寒さの厳しい日が続いています。くれぐれも健康にご留意ください。

(東京都 A・M)

## 自由のない生活の中で ふと前刑の事を思い出した

栗原先生とは書面でのお付き合いしかありませんが、4年ほど前にF刑務所から何度か先生との手紙のやり取りをさせてもらいました。今回も同じ罪名で当署にて拘禁生活を余儀なくされております。逮捕されてまだ10数日ですが、今自由のない生活の中でふと前刑の事を思い出しました。そう言えば栗原先生の潮騒ジョブトレーニングセンターは今どんな状況なのか、先生はお元気なのか等を考え、取り急ぎ筆を走らせました。この中にいると、あれこれと考える事だけが唯一許される“自由”なので、色々な事を思い出し、様々な事を考えてしまいます。当然ながら気分が滅入る事が多く、情緒不安定状態が続く毎日です。もし先生にご迷惑でなければ、また手紙のやり取りなどをお願いしても宜しいでしょうか。同じ道を歩いてきた先生だからこそ話せる事も沢山あります。どうぞ宜しくお願いします。

(茨城県 N・M)

## 51歳になるが 私なりの幸せな人生を手にしたい

私は3年6カ月の刑期を持って当所に来た訳ですが、満期でも残り6カ月余りとなりました。これまでの手紙は刑務所内の生活が中心でしたが、これからは真剣に出所後のことを書けます。寒さは厳しいですが、残りの日々を頑張り元気な体で出所できるようにします。また私が、栗原さんの所から新しい人生を送っていけるようご支援を宜しくお願いします。私も今年5月で51歳になります。必ず私なりの幸せな人生を手に入れるようにします。栗原さんの年賀状によると、今年は年男だそうで、おめでとうございます。これからも風邪を引かないようにお体を大切にしてください。私も当所から出所し、1日でも早く栗原さんの元気な姿を見る日が、今からとても楽しみです。それと毎月必ず送って頂いている手紙と潮騒通信ですが、とても楽しみにしていますので、どうか出所するまで送ってください。お願い致します。

(東京都 A・M)

# しおさい俳壇

2月のお題

水仙

選者 桐本石見

わが俳句人生の歩み・No.16

センター長 栗原豊

私は受刑生活で俳句作りに生きがいと希望を見出したことで、結果的に創作技術が大きくアップした。当時、全国の受刑者向けに発行されていた月刊文芸新聞「ひと」の俳句欄にはほぼ毎回、私の作品が掲載されていたことからその事が証明された。当時、「ひと」新聞は受刑者の間ではレベルが高いことで知られていただけに、私は密かに鼻が高かった。余勢を駆って、いつしか短歌にも励むようになり、この分野でも関東管区優秀表彰を受けたこともあったが、やはり私には短歌よりも俳句の方が向いていた。私の受刑生活は俳句が前向きなエネルギーを生み出す糧となった。日中、作品のアイデアや言葉が浮かぶと一生懸命に記憶しようと試みたが、工場作業の中では覚えておくことは難しい。また夜、消灯後にいい表現がひらめいた時には暗闇の中で必死にメモし、書きなぐった。それを布団の下に隠しておいたが、翌朝見てみると何が書いてあるのか判読できないことも多かった。

しかし、そうした涙ぐましい努力にもかかわらず私の唯一の貴重な発表の場であるこの新聞は、いつの間にか潰れてしまった。後で分かったのだが、投稿作品の中に当事者しか分からない暗号のような表現を使って受刑者同士が情報を交換したり、作品を装って連絡に悪用していたのだ。囚われの身であっても悪知恵が働く者はいるものだと、私は感心した。それだけでなく刑務所では自分のいる位置が分かる表現、地図はもちろん不可だ。非礼な表現や相手を威嚇したり、脅したりする表現もダメ、逃亡や脱走につながる表現などはもちろん厳禁だ。私が務めていた時代、外部に手紙は出せないしノートもすべて検閲された。なんとはいない俳句作品といえども外には持ち出せなかった。例え文学的な営みであっても、個別の表現には厳しい制限が加えられていた。

(次号につづく)

水仙や

私は今も

独り者

かーと

水仙は地中海沿岸が原産地で日本へは中国を経て室町時代以前に伝わり、原種は三十種くらいあるとも。中でも日本水仙は清楚で可憐だがどこか淋しい、この詠も独り者で淋しく水仙の花に相應しいが哀しい句。因みに水仙の名所は、越前岬、伊豆の爪木崎、千葉の江月が有名で海を配して美しい。

川の瀬に

映る水仙

なに思ふ

小太郎

水仙は清楚だが花言葉は「自惚れ」で、それはギリシヤ神話に由来する。昔に美少年ナルキッソスは多くの女性の愛を入れずにいたが、その内女神ネメシスに恋した、しかし反対に受け入れられず、水鏡に映る自分に恋狂い死ぬ。川岸に咲く水仙も我が水影に何かの想いにふけるのかも。その神話を彷彿する句です。

特選句

特選句

秀逸句

## 今月の秀逸句

アベ

### 旅人の一人の昼餉水仙花

水仙は群れに咲いてもどこか淋しいが、食堂などで花瓶に活けてあるのも質素である。一人旅に食堂の片隅で昼の食事をするのも何処か淋しい。旅は多人数で話をしながらのと、一人しみじみとするのがあがるが、この詠には水仙の花が似合う旅の句です。

ヒロ

### 水仙の花に誘はれ庭先に

俳句で水仙は冬の季語なので寒い中にも咲く水仙には春の近いを思うとともにいじらしさも思う。庭先に一つの花を見つけると近寄って見たくなる。人は大昔から花を愛で着物の柄や陶器の絵に描いたりした。花を愛でるのは、人の優しさでもあり心む句です。

オノ

### 房総の段々畑野水仙

房総は日本でも有名な花の産地で十二月には菜の花のニユースがあります。鋸南町は水仙でも有名で、江月、をくずれ地区はこに名高く私も訪ねたことがあります。昔は山田や畑を今では殆ど水仙畑にして集落全てが水仙の里と言えます。句の作者もその旅の詠かも。

いしだ

### 風吹けばラツパ水仙踊りだす

水仙の種類は何百もあると言われますが、ラツパ水仙は名の如く音楽でも吹く様で楽しい。公園などで多くのラツパ水仙が咲いていると子供の楽隊を連想する。花には古来から名前がありますが巧い名付けを感じます。微笑ましい句です。

おに

### 水仙や鏡台の辺に楚々と咲く

水仙は中国の呼び名で音読して日本でもスイセンと言う。仙人は天にあるを水仙、地にあるを水仙、水にあるを水仙と言うと中国の古典にある。水辺の花の美しさを水仙に例えたのかも。鏡台に映る水仙もギリシャ神話を彷彿して艶冶で神秘的な一句です。

ゆたか

### 北浦のけふさぎ波に春立ちぬ

北浦は大昔は流れ海とも言われ霞ヶ浦、利根川と流れて銚子に注いでいたし、常陸風土記にも大船津、浪逆浦辺りは魚貝の獲れる海として記されている。また公魚漁の帆曳船が浮ぶ美しい浦でもあった。その北浦にさぎ波がきらきらと輝き立春を思う心む句です。

## 佳作

かーと

水仙に祈りを込めて灯を点す

ヒロ

遊歩道けふ水仙の咲き始む

コバ

水鳥の足元似てる水仙に

とむ

水仙のそそと寄り添ふ夕べかな

いしだ

黄水仙活けて我家の今朝の卓

おに

水仙のいつ咲き出でし庭掃除

おに

師を悼む告別式の水仙花

ぐつち

水仙を水に刺してはけふの色

あお

行きゆきて芽吹く山路やここは何処

ゆたか

背を伸ばし七十二歳春を待つ

ゆたか

ひと群れの花の乱れも野水仙

ゆたか

鶴翼の陣とも見ゆる野水仙

# どっこい 私も生きてます

～ガクちゃんの回復記～

## 「潮騒の仲間に出会ったことで成長できた」

～4年7カ月振りに施設を離れ、実家に戻って思うこと～

僕は4年7カ月間、潮騒ジョブトレーニングセンターにお世話になりました。栗原センター長、ルミさん、スタッフの皆さん、ありがとうございました。それほど長い期間いたのですね。まあ、その間には、いろんなことがありました。潮騒ジョブに来る前、社会で居場所がなくなりそうになったところを、栗原さんに拾ってもらおうような形で潮騒ジョブに入寮しました。なので、最初の頃は「なぜ自分は社会で居場所をなくしてしまうのだろう?」「自分の問題って本当は何なのだろう?」と、それまでの中途半端な人生の歩みを思い出すたびに考え込む日々でした。

もちろん根本には依存症という困難な病がある訳ですから、クスリによる脅迫的な幻覚・幻聴妄想が自分を追い込み、責めたりするのが主因です。施設では独り考え込んで解決できない自分の重たい課題に手を焼きながら、定期的にふさぎこんでしまう事の繰り返しでした。今振り返ってみると、出口の見えない八方塞がりな状況から自分が抜け出せたのは、やはり一緒に暮らす仲間の存在の大きさでした。それまで僕は違い探しばかりして、「みんなとは違うんだ」「その気になればクスリなんて簡単にやめられる」と開き直り、自分の無力を認めることができなかったのです。だから仲間との距離がなかなか埋まりませんでした。でも、不思議な事に施設で一緒に暮らし、同じ釜の飯を食い、毎日ミーティングで顔を突き合わす中で、いつの間にか仲間への「信頼」や「感謝」が生まれたのです。次第に家族に近い感じに思えてきて、潮騒での生活が居心地よくなりました。結果的にそれが長く居座った原因かもしれません。

こうして僕の大きな問題である“ふさぎ込み”がなくなっていき、考え方も前向きになりました。そういう形で自分が変わっていった過程を文章で表すのは僕には至難の業ですが、仲間への凄く大きな感謝の気持ちだけは伝えたいです。施設での生活を終え、元のサヤに戻って今は実の家族との日々を送っていますが、やはりそれなりにいろいろあります。でも、普通の家庭でもそうのように、いろいろあって当たり前前だと思えます。そんな風に現実を受け入れられるようになったのも、潮騒で僕が成長できたお陰です。社会に出たら、とたんにダメになったと言われないよう、実家ででの暮らしでも少しずつ成長できるように頑張ります。これが実家に戻った僕の目標です。こんな謙虚な気持ちになれたのも潮騒ジョブと仲間たち、そして家族…周囲の皆さんの励ましのお陰です。改めてありがとうございました。(ガク)



左からキクさん、ガクさん、センター長

### 2月のバースデイ

ヨコ



忍耐

コバ



一生クリーン

### 潮騒コラム

同じ依存症者でも若ければ回復への希望も抱けるが、長年の依存で精神や身体の後遺症、認知症や内臓疾患、車いす生活になった高齢入寮者を、高齢者介護のノウハウがない潮騒はどこまで引き受けられるのだろうか? ▼そこで潮騒では、自分たちで高齢者介護福祉サービスを請け負う新規事業に進出。フランチャイズ全国展開中の実績ある専門事業者と契約し、その指導を受け鹿嶋市内に小規模デイサービス事業所を開く ▼目下、若いスタッフらが「介護職人」を目指して奮闘中だが、依存症という特殊な分野だけに潮騒高齢入寮者の介護認定の難しさに直面している。65歳以上の入寮者に優先利用してもらう計画も、諸事情からスムーズではないようだ ▼どこにも行き場がなく潮騒が終の棲家となっている高齢依存症者の残りの人生を、どう意義あるものに保障していくか? 一少なくとも3年間の潮騒ファイザープロジェクトで、農業分野なら各自のペースで老後を豊かにできる手ごたえは得ている ▼これを弾みに今回、“待たなし”の高齢者アディクトの老後問題に自力で取り組む。全国ダルクのテストケースとなるが、潮騒では「人生の幕引きぐらいはアルコールやクスリ、ギャンブルなしで、人間らしくありたい」との切実な願いに手探りで応えようとしている。(勝)

## 2月の行事予定

- 3日 鹿嶋・降魔山護国院豆まき
- 8日 秋元病院メッセージ
- 16日 新宿とまりぎアルコール問題相談業務
- 20日 三郷市青少年育成推進委員協議会来所
- 20～22日 AA日本40周年記念集会(横浜市)
- 21日 秋元病院メッセージ
- 22日 潮騒家族会
- 26日 映画会

## 3月の行事予定

- 8日 秋元病院メッセージ
- 14日 岐阜ダルクミニフォーラム
- 16日 新宿とまりぎアルコール問題相談業務
- 17・18日 潮騒運動会
- 21日 秋元病院メッセージ
- 22日 潮騒家族会
- 26日 映画会
- 28日 とかちダルク3周年記念フォーラム

## 献金を頂いた方 (2月15日現在)

- ・坂本 佳代子様(埼玉県)・谷岡 佐江子様(茨城県)
- ・渡辺 洋子様(品川区)・大谷 美香様(愛知県)
- ・黒沢 清美様(茨城県)
- ・医療法人 秋元病院(千葉県) 理事長 秋元 伸夫様
- ・医療法人 秋元病院(千葉県) 安野 勇様
- ・菜の花 家族会 富井建夫様(千葉県)

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。  
 おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。  
 今後ともご支援くださいますよう、なにとぞ宜しくお願い申し上げます。

- ※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございました。
- ※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

## 編集後記

今は流行らないのかもしれないが、以前に学校でオアシス運動がもてはやされた時期があった。地域を挙げて取り組む「おはよう・ありがとう・失礼します・すみません」の挨拶運動のことだ。中学時代この運動がひどく苦手だった。ナイーブで多感な思春期に差し掛かると、友達も含めて人間関係がとても煩わしく、他人と目を合わせたり、大声で挨拶するのがとても気恥ずかしかった。その分独りだけの時間と空間がとても有難く、好きな本を読んだりして自分だけの世界に浸りきった。結果的に、この体験が自分の内面を豊かにし、成長したと思っている。思春期にありがちな内向病みたいなもので、この時期を過ぎると人との付き合いもそんなに抵抗感を抱かなくても済むようになった。社会生活する上で支障がない程度の身の処し方は体得したが、正直今でも人付き合いは

うまい方ではない。先日、オアシス運動に熱心な地元の中学生らから激しい“挨拶攻撃”を受けた。オウム返しに「こんにちは」と声を掛けられるのはいいとして、なんとも義務的かつアリバイ的な感じで、いかにも学校が考えそうな「健全健康」イメージが透けて見える気がした。自己満足に思える学校の薬物乱用防止活動も、恐らくその延長上にあるのだろう。学校関係者には「明るく健康的」というイメージだけではとらえきれない人間の奥深さ、複雑さには目が届かないようだ。誤解を恐れずに言わせてもらえば、健常者に比べたならアル中・ヤク中の犯罪発生率は極めて低いのに、短絡的に犯罪者と結びつける誤解と偏見の背後には、誰も批判できない(つまり批判を許さない)「健全社会の怖さ」があるように思う。(市)

## 潮騒通信 どっこい生きてます! 2015年2月号

### Contents

- P② 私たちの活動には世界平和へのビジョンがある
- P③ 潮騒ファイザープロジェクトの3年間を振り返って
- P④ 鹿嶋市の護国院で恒例の節分祭
- P⑥ 近藤恒夫氏インタビュー「ダルクと就労支援について」Vol.2  
人間が最終的に目指すのは幸福の追求だ
- P⑧ 潮騒スタッフ相関図
- P⑩ 受刑者からの手紙
- P⑫ しおさい俳壇 2月「水仙」
- P⑭ どっこい私も生きてます「がくちゃんの回復記」

### ■ 編集・発行 :

特定非営利活動法人  
 潮騒ジョブトレーニングセンター(本部)  
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 34号  
 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210-10  
 TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091  
 潮騒リカバリーホーム(中施設)  
 〒314-8799 鹿嶋郵便局 私書箱 56号  
 〒311-2213 茨城県鹿嶋市中 2773-16  
 TEL:0299-69-9099 FAX:0299-69-9098  
 潮騒スリークオーターハウス銚田  
 〒311-2113 茨城県銚田市上幡木 1113-39

E-メール [k.s-darc@orange.plala.or.jp](mailto:k.s-darc@orange.plala.or.jp)  
 ホームページ <http://shiosaidarc.com/>



